

大庭 健教授 履歴・業績

大庭 健 教授 履歴・業績

履 歴

1946年5月18日 浦和市（現さいたま市）にて出生

[学歴]

1965年3月 埼玉県立浦和高等学校 卒業

1965年4月 東京大学教養学部文科Ⅲ類 入学

1971年6月 東京大学文学部倫理学科 卒業

1973年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程倫理学専修課程 修了

1978年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程倫理学専修課程 単位取得
退学

[職歴]

1973年3月 大学受験予備校東京医学セミナー外国語科講師 1975年4月まで

1975年4月 千葉大学教養部非常勤講師 1980年3月まで

1979年4月 専修大学文学部講師

1983年4月 専修大学文学部助教授

1983年10月 東京大学教養学部非常勤講師（社会哲学演習）1985年3月まで

1987年10月 東京大学教養学部非常勤講師（科学哲学第一）1988年3月まで

1989年10月 山形大学人文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）集中

1990年4月 専修大学文学部教授

1990年4月 千葉大学文学部非常勤講師（倫理思想史）1990年9月まで

1991年4月 東京大学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）1991年9月まで

1991年7月 長期在外研究員1992年11月まで

1993年10月 東京都立大学人文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）1994年3月まで

- 1994年4月 東京学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）1994年9月まで
1994年4月 熊本大学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）集中
1994年10月 北海道大学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）集中
1998年4月 京都大学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）集中
2001年4月 東京大学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）2001年9月まで
2002年4月 東京大学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）2001年9月まで
2005年4月 早稲田大学文学部非常勤講師（倫理学特殊講義）2005年9月まで
2008年10月 大阪大学大学院非常勤講師（現代哲学講義）集中

[学内役職歴]

- 1985年6月 教養課程委員会委員 1989年5月まで
1989年12月 キャンパス長期構想検討委員会委員 1991年3月まで
1994年4月 教養課程委員会委員 1995年12月まで
1994年12月 教養教務委員会委員 1995年3月まで
1999年9月 出版企画委員会委員 2001年8月
2000年4月 障害学生支援推進委員会委員 2003年3月まで
2002年6月 出版企画委員会委員 2010年3月まで（2002年7月～2010年3月、
委員長）
2003年4月 自己点検・評価委員会委員 2015年3月まで
2003年4月 自己点検・評価運営委員会委員 2005年3月まで
2004年4月 図書館長 2014年3月まで
2004年4月 eキャンパス推進委員会委員 2012年3月まで
2011年4月 購買会連絡協議会委員 2012年3月まで

[社会的貢献]

- 1998年1月 日本学術振興会「科学研究費委員会専門委員」1998年9月まで
2003年8月 日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金選考委員会委員」
2013年7月まで
2008年10月 日本学術会議「日本学術会議連携会員」2017年9月まで

2012年1月 日本学術振興会「科学研究費委員会専門委員」2012年12月まで他多数

2013年8月1日 日本私立学校振興・共済事業団「学術研究振興資金選考委員会委員」2015年7月まで

業 績

[著書]

「支配の社会学（ウェーバー）」『世界の古典名著 総解説』, 自由国民社, 1976年12月

『近代的人間の現状』勁草出版サービスセンター, 1986年3月

『ヘーゲル読本』法政大岳出版局, 1987年3月

「現代において倫理学とは何でありうるか」『倫理学とは何か』, 日本倫理学会 慶應通信, 1988年10月

『他者とは誰のことか—自己組織システムの倫理学』, 勁草書房, 1989年10月

『権力とはどんな力か—続・自己組織システムの倫理学』, 勁草書房, 1991年7月

「なぜ道徳を気にしなければいけないのか」安彦一恵, 溝口宏平他『道徳の理由—Why Be Moral』(共著), 昭天堂, 1992年12月

竹内整一, 月本昭男『宗教と寛容』(共著), 大明堂, 1993年3月

「普遍主義の文脈」『岩波講座 現代思想14 近代／反近代』(共著), 岩波書店, 1994年4月

竹内整一編『宝積比較宗教・文化叢書, 4 無根拠の時代—今あらためてリアリティー・アイデンティティーを問う』(共著), 大明堂, 1996年3月

『自分であるとはどんなことか』, 勁草書房, 1997年12月

「道徳は効率をめざすべきか, 公正をめざすべきか」佐藤康邦・溝口宏平編『倫理学のフロンティア モラル・アポリア—道徳のディレンマ』, ナカニシヤ出版, 1998年2月

関根清三編『「講座」現代キリスト教倫理2 性と結婚』(共著), 日本基督教団出版局, 1999年8月

- 大庭健・安彦一恵・永井均編著『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（共著），ナカニシヤ出版，2000年9月
- 大庭健・鷺田清一編著『倫理学のフロンティア 所有のエチカ』（共著），ナカニシヤ出版，2000年10月
- 『私という迷宮』，専修大学出版局，2001年4月
- 『講談社現代新書1651 私はどうして私なのか』，講談社，2003年2月
- 「傷つける表現」藤野寛・齋藤純一編『表現のリミット』，ナカニシヤ出版，2005年6月
- 『講談社現代新書1821 「責任」ってなに？』，講談社，2005年12月
- 『岩波文庫新赤版139 善と悪—倫理学への招待』，岩波書店，2006年10月
- 大庭健他編『現代倫理学事典』，弘文堂，2006年12月
- 『ちくま新書720 いま働くということ』，筑摩書房，2008年5月
- 『講談社現代新書1651 私はどうして私なのか—分析哲学による自我論入門』，岩波書店，2009年1月
- 「自然主義からの“挑戦”」『岩波講座哲学15 変貌する哲学』，岩波書店，2009年7月
- 「Subject—主語・主観—をめぐる哲学的断片」澤田治美編『ひつじ意味論講座5 主観性と主体性』，ひつじ書房，2011年6月
- 『いのちの倫理』，ナカニシヤ出版，2012年9月
- 『民を殺す国・日本—足尾鉍毒事件からフクシマへ』，筑摩書房，2015年8月

【論文】

- 「シュライエルマッハーの共同存在論—アトム論的人倫論の共同主体論超克の試み—」修士論文（東京大学人文科学研究科），1972年12月
- 「バルトにおける神の国と社会主義—H. ゴルビッツァーらの所説によせて」『福音と世界 vol. 28 No. 11』，新教出版社，1973年11月
- 「シュライエルマッハーの人倫論—近代市民社会とロマン主義」『倫理学年報 第24集』，日本倫理学会，1975年3月
- 「共同存在における主体性と時間性—フォイエルバッハ・シュティルナー論争の

- 意義』『倫理学年報 第26集』, 日本倫理学会, 1977年3月
- 「ヘーゲル宗教哲学のバウアー的転覆—近代的主体の先験的反省の行方をおって」
『臨時増刊号 現代思想 総集編 ヘーゲル vol. 6 No. 16』, 青土社, 1978年12月
- 「現代倫理学基礎論序説—事実言明と価値言明の峻別に関する科学倫理的考察」
『人論・1』以文社, 1978年11月
- 「哲学・思想論「哲学研究 (ヴィトゲンシュタイン)」「象徴形式の哲学 (カッシーラー)」「一般システム理論 (ベルタランフィ)」『世界の古典名著総解説 増補改訂版』(共著) 自由国民社, 1979年11月
- 「共同の人=間存在と超越者の内在化—K・バルトにおける《人・間=コミュニケーション》主義への応接をめぐって—」『実存主義86号』, 以文社, 1979年11月
- 「対象の〈構成〉と弁証法」『専修大学人文科学研究所月報70号』, 1979年12月
- 「〈内・外〉観念の機能と源泉を求めて」『現代文化研究会会報 現文研53号』, 専大現代文化研究会, 1980年12月
- 「論理モデル世界—非古典論理の Formal Semantics の哲学的意義」『情報科学研究 No. 1』, 1981年3月
- 「マーケット・ウェルフェアと倫理学」『専修人文論集29号』, 1982年6月
- 「まえがき」「第1章」『廣松渉論』(共著) ユニテ出版, 1982年11月
- 「行為の存立と規則」『倫理学年報 第32集』, 日本倫理学会, 1983年3月
- 「言葉と心, 身の内と身内」『現代文化研究会会報 現文研58号』, 専大現代文化研究会, 1983年3月
- 「第Ⅱ編 第4章」日本倫理学会編『現代倫理学と分析哲学』(共著) 以文社, 1983年10月
- 「客観的社会科学と行為論」『思想712号』岩波書店, 1983年10月
- 「戦後日本のマルクス研究の動向(分担 序説 1章, 終章)」『社会思想史研究 第7号』, 1983年10月
- 「第5章」野家啓一編『哲学の迷路』(共著) 産業図書, 1984年6月
- 「[指示・事実・真偽]—科学と倫理学の「存在論的差異」について—」『理想614号』, 理想社, 1984年7月

- 「指示・事実・真偽(Ⅱ)—倫理学的実充論の可能性—」『理想619号』, 理想社, 1984年12月
- 「Because, Caused?」『専修人文論集36号』, 1985年11月
- 「Ⅵ章1節」『岩波・哲学講座 第6巻 物質・生命・人間』(共著)岩波書店, 1986年3月
- 「Market, Alienated Co-operation」浜井修編『科研費研究報告』東京大学, 1986年3月
- 「行為と他者」日本倫理学会「倫理学年報」, 1986年3月
- B・パウアー著『ヘーゲルを裁く最後の審判ラッパ』御茶の水書房, 1987年2月
- 「メタファー・リアリズム・コミュニケーション」『現代思想 vol.15-6』, 1987年5月
- 「批判的<実践知>としての<物象化>論」『クリティーク8』, 1987年7月
- 「Because, Caused? Again」『現代科学哲学における実在論と反実在論 62年度科研費研究報告書』, 1988年3月
- 「科学的客観性と経験的・人間的 SLACK」『現代思想 vol.16-8』, 1988年7月
- 「近代的合理性《実質的》合理性」『思想747号』岩波書店, 1988年9月
- 「自己組織化と人間」『現代思想 vol.16-14』, 1988年12月
- 「固有「名」は、何を、いかに名指すか」『現代思想 vol.17-3』, 1989年3月
- 「神の社会システム論的還元」城塚登・濱井修編『ヘーゲル哲学と現代』(共著), 東京大学出版会, 1989年5月
- 「真理の妥当根拠という問への問」『理想648号』, 理想社, 1992年1月
- 「自己同一性と固有名…「私」の形而上学」『専修人文論集49号』, 1992年2月
- 「地で行った「精神現象学」」『現代思想臨時増刊号 ヘーゲルの思想』, 1993年7月
- 「方言と関西弁」川本隆史他編『マイクロ・エシックス 小銭で払う倫理学』昭和堂, 1993年9月
- 大庭健・安彦一恵「現代倫理学の基本動向 八十年代倫理学理論の諸展開」『理想652号』, 理想社, 1993年11月(共著)
- 「自己意識とセルフオーナーシップ 梅本の「根源的利己」をめぐる」『状況』,

- 状況出版, 1994年3月
- 「共生と排除の装置としての市場」『法哲学年報1994』, 日本法哲学会, 1994年9月
- 「隠蔽するメディア, ないし貨幣と権力」『状況』, 状況出版, 1995年6月
- 「「私」の意味と指示」『生田哲学1号』, 専修大学哲学会, 1995年7月
- 「関係の第一次性と実定的共同性」『月刊フォーラム 1995年8月号』, 社会評論社, 1995年8月
- 「Tolerance, from a Japan point of view」『生田哲学2号』, 専修大学哲学会, 1996年4月
- 「死をまつる・まつりごと, ないし民主主義と国家」『哲学 47号』, 日本哲学会, 1997年9月
- 「The Emergence of Self and Ethical Responsibility」『生田哲学 4号』, 専修大学哲学会, 1998年7月
- 「意味と価値 物象化の二つの相」『状況』, 状況出版, 1999年11月
- 「指し間違いへの免疫と『独我論』」『生田哲学6号』, 専修大学哲学会, 2000年10月
- 「単独者であるということ」『人間会議 Vol. 4』, 2002年1月
- 「指標語の指示作用の『再帰性』と独我論」『生田哲学7号』, 専修大学哲学会, 2002年2月
- 「暴力のかたち」アエラ編集部編『アエラ・ムック 現代哲学がわかる。』朝日新聞出版, 2002年2月
- 「他人によって意識されているということ」『人間会議 Vol. 5』, 2002年7月
- 「道徳言明はいかにして真あるいは偽たりうるか?」岩波書店『思想961号』, 2004年5月
- 「自然主義という幽霊, もしくはクラフトマン・シップの衰退」岩波書店『思想1011号』, 2008年7月
- 「モラルの教育の可能性と条件」『教育と文化 53号』, 国民教育文化総合研究所, 2008年10月
- 「Self-knowledge and Moral Agency」『Philosophia Osaka No. 5』, 2010年3月

「乖離していく主体」『専修人文論集93号』, 2013年10月

「主体性の復権にむけて」『生田哲学14号』, 専修大学哲学会, 2013年10月

「道徳の教科化という愚行」『教育と文化76号』, 国民教育文化総合研究所, 2014年7月

「行為主体の関与—因果説の空隙」『生田哲学16号』, 専修大学哲学会, 2015年12月

「生きることと選ぶこと—決定論との軋み」『専修人文論集98号』, 2016年3月

[翻訳]

J. モルトマン著『十字架と革命』J.Moltmann;Umkehr zur Zukunft, München und Hamburg 1970』新教出版社, 1974年6月

E. カッシーラー著『哲学と精密科学』E.Cassirer;Philosophie und exakte Wissenschaft, Frankfurt, a, M, 1969』紀ノ国屋書店, 1978年6月

『哲学的倫理学叙説』Harman, G. The Natural of Morality (12章以下および解説担当) 産業図書, 1988年11月

「合理的な愚か者 Seu, A, Choice,Welfare and Measurement」抄訳 (共著) 勁草書房, 1989年4月

ニコラス・ルーマン著『信頼 社会的な複雑性の縮減メカニズム』(共訳) 勁草書房, 1990年12月

デイヴィッド・ウィギンズ著『ニーズ・価値・真理』勁草書房, 2014年7月

マクダウエル著『徳と理性』勁草書房, 2016年2月

[その他]

「ハーバーマスの社会科学論」『インパクト 11号』, イザラ書房, 1981年4月

「なぜシステム論なのか 近代の世が複雑になったからなのか」『システムと共同性』, 昭和堂, 1994年11月

「近代の超克」と物象化 広松渉の関係主義とりべラリズム」対談『月刊フォーラム1995年6月号』, 社会評論社, 1995年6月